

学校教育目標	夢いっぱい ふるさと 豊栄小学校	経営理念	本校の使命 (Mission) 5年・10年先の未来を思い描き、1年後、どんな自分になりたいのか(夢)に向かい、何をしていくのか(目標)をもち、自ら課題を発見し、学びとともに、他者と協働して解決しようとする児童の育成									
			本校のビジョン (Vision) <ol style="list-style-type: none"> <li>夢の実現のために、目標に向かって努力する児童を支援し、意欲的・組織的に活動する教職員集団の育成(一人一人の児童に寄り添う。)</li> <li>副科を中心に、個別最適な学びと協働的な学びの一体感を目指し、児童の学力・教職員の指導力の向上。</li> <li>社会に関わった教育課程の実現のために、学校運営協議会を充実させ、保護者・地域・関係機関との連携を図り、信頼される学校づくりの推進。</li> </ol>									

評価計画				自己評価				学校運営協議会委員評価		改善方針				
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成度		評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針	
							9月	1月						
確かな学力	1	主体的・対話的で深い学びの充実	基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習規律を徹底させる。</li> <li>わくわくタイムを充実させる。</li> <li>コグトレに継続的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科における単元末テストの到達度85点以上の児童は、全校で70%で、目標の85%を下回った。学年別にみると、目標を上回った学年は3学年、下回った学年が3学年あり、文章読解よりも「聞く・話す」問題に課題がある学年、教科書教材はできても学期末まで初見の文章の読み取りが困難な学年など、課題は学年ごと異なる。</li> <li>学習規律は話の聞き方について昨年度末に見直し、年度初めに教職員で確認した後、学級で継続して指導している。今年度は特に、対話の力を伸ばすために全校でのわくわくタイムや各学年の朝の会でのわくわくタイムに取り組むことで、児童が対話に慣れ、意欲をもつことができた。</li> <li>学力の基盤となる認知力を伸ばすためのコグトレは、週1回のオトタイムを中心に実施し、オンラインコグトレは児童が自分で問題を選択し意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>	85%	70%		82%	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科における単元末テストの到達度85点以上の児童は、全校で70%で、目標の85%を下回った。学年別にみると、目標を上回った学年は3学年、下回った学年が3学年あり、文章読解よりも「聞く・話す」問題に課題がある学年、教科書教材はできても学期末まで初見の文章の読み取りが困難な学年など、課題は学年ごと異なる。</li> <li>学習規律は話の聞き方について昨年度末に見直し、年度初めに教職員で確認した後、学級で継続して指導している。今年度は特に、対話の力を伸ばすために全校でのわくわくタイムや各学年の朝の会でのわくわくタイムに取り組むことで、児童が対話に慣れ、意欲をもつことができた。</li> <li>学力の基盤となる認知力を伸ばすためのコグトレは、週1回のオトタイムを中心に実施し、オンラインコグトレは児童が自分で問題を選択し意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>	A 3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>コグトレに期待しています。中学校との連携で取組がさらに進むといいです。</li> <li>達成度が70%であるが、85点という目標が高い割にはよい数字だと思います。今後とも、個々の力を伸ばす指導を続けていただきたいです。</li> <li>わくわくタイムで対話する場面を設定して、思いを表現することに慣れていくのはよい取組だと思います。</li> <li>目標達成の方策について取り上げられていませんが、家庭学習への取組はどうか。昨年度は学年によって差があったように感じますが、すべて適切な取組だと思います。</li> <li>コグトレは、オトタイムの他に各学年で取り組むことができ、定着を図る。</li> <li>コグトレは、オトタイムの他に各学年で取り組むことができ、定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明文の学習等で児童が身に付けた、大切な言葉を見付け等の力をテストを解答する際にも生かせるよう、テストの受け方のスキルも発達段階に応じて指導する。また、個別の支援が必要な児童に対して、各学年での取組を継続する。</li> <li>対話については、各学年の発達段階に合わせた目指す対話の姿を「対話の達人」として各教室に掲示しているため、児童の実態に応じてわくわくトークの内容を工夫し、対話スキルの向上を図る。</li> <li>学習規律は、後期始まりなど節目ごとに確認や指導を行い、定着を図る。</li> <li>コグトレは、オトタイムの他に各学年で取り組むことができ、定着を図る。</li> </ul>
			教職員の指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科における対話の工夫を行う。</li> <li>個別最適な学びを工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価表(教師)における肯定的評価</li> <li>振り返りアンケート(児童)における肯定的評価</li> </ul>	85%	77%		91%	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業後の教職員における授業評価3点の平均は77%で、目標を下回った。「対話の必然性が生まれる課題設定(学習展開)であったか」は79%であり、目標値をやや下回る値であったが、「対話を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることはできていたか。」の項目は、61%と大きく下回った。対話の必然性をもたせる課題設定はできているが、考えを広げ深めることに課題が残った。</li> <li>国語科の研究授業後に行った児童による学習振り返りアンケートにおける肯定的評価の平均は87%で、目標を達成できた。特に、「説明文を読む力が付いたか」の項目では89%、「説明文の学習は役に立つか」の項目では86%と高い値を示したことから、言語活動を充実させ、対話の必然性をもたせたことが児童の学習意欲や達成感につながったと考えられる。一方で、「友だちと話し合ったことを自分の考えに生かしていますか」の項目は78%であった。今年度の研究テーマである、考えを広げ深める児童の育成に向けて、指導の手立ての見直しが必要であると考える。</li> </ul>	A 3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期の取組が、後期の研究会を通してより一層深まることを期待しています。</li> <li>教師と児童の対話を今後より密にし、スムーズに授業が行われるようにしてほしいです。</li> <li>課題について十分に認識されていると思います。</li> <li>子供の声に共感し、子供の発言からイメージを膨らませていたり声掛けをしながらかけるようにしてほしいです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究会に向けて、研究紀要を使って前期の研究を振り返り、児童の考えを広げ深めるために、対話の手法と、交流後の考えの生かし方について共通理解を図る。</li> <li>対話についての掲示「対話の達人」を活用して、各学年で身に付けた対話の姿を明確にして、対話指導を継続する。</li> </ul>
豊かな心	2	ふるさとに愛着をもち、夢を実現しようとする児童の育成	東広島スタンダードの定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活目標で「東広島スタンダード」4項目に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東広島スタンダード4項目のうち自己評定で3つ以上達成する児童</li> </ul>	80%	58%		73%	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の達成度は、1年生73%、2年生78%、3年生30%、4年生56%、5年生60%、6年生64%であった。各項目で見ると、「挨拶」や「履物を揃える」は肯定的評価が高く、「返事」や「言葉遣い」の項目が低かった。靴揃えは現在の児童主体の運営委員会が取組を行っていることが効果として表れていると考えられる。</li> </ul>	A 3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状の細かな分析に基づいて、これからの具体的な改善が示されています。引き続き目標値に近づこうと努力していただきたいです。</li> <li>「履物を揃える」は地域の行事でもよくできていると思います。気持ちよいです。「挨拶」は決まった場面ではできています。応用できていないところもあるように思います。また、ある団体の方が豊栄の子は丁寧な声がかけていない。」と言われたことがありました。(一団体一人の意見ですが)</li> <li>児童主体の取組がとても素晴らしいと思います。</li> <li>東広島市全体で取り組んでいるスタンダードなので、意識した取組の成果を期待しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の全体発表や、地域・先生に話をするときは「です。」「ます。』を使っている。」など、具体的な達成の姿を児童に示す。</li> <li>呼名をしたときに声が小さい場合はやり直しをさせるなどして、はっきりと声を出せるようにする。</li> <li>児童が自ら改善できるよう児童会を中心とした取組を進める。</li> </ul>
			心身の健康を育てる教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>業前体育や体育科授業、ロング昼休憩を活用し、体力づくりをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>N1達成する児童</li> </ul>	70%	35%		50%	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>1分チャレンジの達成度は68%、2分チャレンジは57%であった。運動会で保護者参加にすることで、家庭内で取り組む児童が増えた。1分ごとにチャレンジを区切ったことで、達成できそうなものを自分で選んで児童は挑戦することができた。2分と3分には大きな壁がある。</li> </ul>	A 3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>数値的には低いですが、徐々にパーセントが上がることを期待します。</li> <li>運動会で保護者の方をN1にチャレンジさせたことはよかったです。運動会が本人が参加できることとはとても大切ですね。児童が自分の体力に合わせてチャレンジできるように、目標を細かく設定されていることがいいと思います。</li> <li>握力の低さが気になっていたのですが、筋力アップも視野に入れて取り組んでほしいと思います。</li> <li>引き続き、体力増進に向けて取り組んでください。</li> <li>継続的に取り組まれていることがすばらしいです。一人一人の目標達成に向けての配慮のもと、意欲が高まることを願っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3分達成者と未達成者で分けて業前体育を行い、児童に目標を明確にさせて、意欲をもち集めて取り組ませる。</li> <li>体育科授業の初めにN1や確認(決定)に関する運動を取り入れることで、継続的に児童が取り組めるようにする。</li> </ul>
信頼される学校	4	保護者・地域・関係機関に信頼される学校づくり	児童の活躍する場の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種通信や映像の配信、メディアへの投稿等を通じて、児童の活躍する姿や作品を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートによる肯定的評価</li> </ul>	90%	99%		110%	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート「学校は保護者に対して積極的に児童の活躍する姿や取組等を発信している。」に対する肯定的回答は、第1回アンケートが98%、第2回が100%であった。学校だよりや学級通信で写真等を効果的に使って児童の活躍する姿を発信し続けたことで、多くの肯定的回答が得られたと考える。また、今年度も運動会の表現種目を配信し、わが子が何年生かに関わらず、低学年・高学年両方の映像を見られるよう行ったことも、本校児童の活躍をしっかり見ていただくことにつながった。</li> </ul>	A 3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中合同の「ほげだより9月号」で子供の現状や課題について掲載されています。時置を得たよい指摘だと思います。</li> <li>学校だよりを毎月見送っています。内容もよみやすい構成になっています。</li> <li>写真や映像で学校の様子を見ることができた。保護者はありがたいですね。</li> <li>昨年度に比べ、新聞への俳句の投稿が少なくなっているように思います。</li> <li>まだ、コロナ禍からの立ち直りが完全ではないので、今後に期待します。</li> <li>積極的な情報発信がすばらしいと思います。</li> <li>保護者が普段見られない学校生活の姿、学校と家庭とで共有したい行事の取組等を可視化されている取組は、学校運営の深い理解につながっていると思いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期の取組を継続するとともに、後期は、各学年ごとの映像・動画等の発信を行う。</li> <li>9月30日に行った学習発表会の映像を、全学年の発表が見られるように配信し、入れ替え制により見ることができなかった他学年の活躍を模範できるようにしたい。</li> </ul>
			働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>勤務時間の縮減へ向け、業務改善を推進させ、児童に向き合う時間を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員アンケート「子供の向き合う時間の確保」の肯定的評価</li> </ul>	95%	90%		95%	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員アンケート「児童の話にじっくりと耳を傾ける。」「個別の対応のための教材作りを含めた教材研究ができている。」「など子供と向き合う時間がある。」に対する肯定的回答は、第1回アンケートが90%、第2回が80%であった。研究会に向けての準備で業務量が増え、教職員の多忙感が増えたことが影響し、肯定的回答が減少したと考える。長期的なスケジュールを提示するなど、見直しをもって業務ができる手立てを行ったが、向き合う時間が確保されているという意識の向上にはつながらなかった。</li> </ul>	A 3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務量の見直しや効率化、見直しが大切だと思います。</li> <li>先を見通した業務推進と協働を意欲された取組の中、支え合う職員集団の思いが伝わってきます。お身体を大切にしてください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>決まった教職員が勤務時間外の在任時間が増加している。研究会に向けて業務量が増えるのは仕方がないが、業務ができるだけ偏らないように、割り振れる業務は分散して業務量の調整を行う。</li> <li>見直しをもった業務遂行のため、早目の予定提示等によりスケジュール管理を継続して、見直しをもった業務推進を目指す。</li> </ul>

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>■達成度の見取り</li> <li>4...106%以上</li> <li>2...75%～99%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3...100%～105%</li> <li>1...75%未満</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■学校運営協議会委員評価</li> <li>A(4)...とても適切である</li> <li>C(2)...あまり適切でない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>B(3)...概ね適切である</li> <li>D(1)...全く適切でない</li> </ul>